

## 記者レポート

災害時の正確で迅速な情報は命綱そのもの。今回の報道を見てみると、耳が聞こえにくい人のための対策が目を引く。官房長官会見では、発生直後はなかったが、途中からテレビ画面の左側に窓ができて、官邸の手話通訳が映るようになった。字幕放送も増えているように見える。地上デジタル放送対応のテレビなら、「字幕」ボタンを押せば画面を字幕が流れる。



屋内での待機をお願いをいたしているところでございますが

西武池袋線 午後1時半～午後2時半 池袋～飯能で運行

17日午前、官房長官の会見。左の小窓に会見場の手話通訳が映り、字幕ボタンを押すと中央下のような字幕が流れる（TBSテレビより）

## 情報格差をなくせ

緊急時の字幕は聞き違いの恐れもあることから放送局にとって大きな課題だったが、今回の災害報道では、各局とも最大限の努力をしているという。NHKは自動変換で原則として全時間帯で字幕放送を流し、教育テレビの手話ニュースの時間を拡大。民放各局も、「情報格差があってはならない。字幕はやれるだけ流している」（日本テレビ）という姿勢だ。

ただ、障害者団体からは「まだ十分」という声があがる。聴覚障害者向けの「目で聴くテレビ」を放送するCS障害者放送統一機構（大阪市）の大嶋雄三専務理事は「全ての時間で字幕がついているわけではない。字幕のスタッフが少ないせいか正確性にも欠ける」と話す。同テレビは、震災発生直後からは緊急災害放送に切り替え、NHKニュースに手話と字幕をつけて放送。インターネットを使った配信も始めた（<http://www.medekiku.jp>）。政府や各局は、情報格差は正に全力で取り組んでほしい。（丸山玄則）